

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310014	X-21-B-1-310014			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	1年 1年 1年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
基礎ゼミナール1	臼井 陽一郎						

ゼミテーマ・タイトル

世界の認識への準備

内容

自分について、世界について、どのように考えていいかの。このゼミでは、特定の知識を自分の脳に保存するための学習ではなく、何をどのように考えればいいのかを考えるためのきっかけ作りを目指し、それを参加者の間で共有していきたい。レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法についても指導する。

ゼミで実施するワークの例：

自己紹介—いま自分に足りないこと・絶対に手に入れたいこと・ひとを幸せにすること

写真を読む—物語を読み取りメッセージを見出す

動画を観て文章を書く—映像の中で何が生じているのかをつかむ

難民問題について—誰の責任か・誰が救済すべきか・日本は何をすべきか

シリア難民の臓器売買—臓器を買う売人と売る難民は悪を為しているのか

エッセイコンテスト—描写の具体性・論理の説得力・主張の訴求力・文の柔らかさ・無条件の魅力

テキストを読む—入門政治学 365 日・戦争に負けないための二〇章・ダウン症をめぐる政治

音楽を聴いて文章を書く—忌野清志郎・ジョンレノン・発達障がいをもつピアニスト

自分の価値観を探る—理想の自分像と理想の人間像を比較する

政治家のスピーチを聴く—トランプ・サンダース・斎藤隆夫・チャップリン

小説を読む—ドストエフスキイ・トマスマン・大江健三郎・中上健次など。

400 字課題：

400 字びったりで下記のテーマを自由に論じる（主語に一人称は使わない・語尾に思う思った感じる感じたは使わない）人間について・希望について・絶望について・身体について・精神について・社会について・政治について・世界について・正義について・自由について・公正について・不安について・平等について・理想について・秩序について・歴史について・テロについて・権力について・戦争について・責任について なお、400 字課題含めて、毎回 4 時間相当の予習／復習が必要になる。

使用予定テキスト

適宜授業中に指定する。

ゼミの進め方

毎回ゼミ内で課題を出す。A3 版用紙一枚でその課題への応答を表現してもらう。絵を描くのでもかまわない。

成績評価基準

ゼミ内で実施する課題 50%

ゼミ外で実施する課題（400 字課題）50%

ゼミ選択上のアドバイス

ゼミの中でぽつんと一人、だれとも喋らず座っているだけでもよいです。頭の中で・心の中で、しっかりと考え方抜いてください。イツメンと一緒に来て机の上にカバンおいて先生から手元が見えないようにしてスマホで LINE やゲームに精を出し、限られた生命の時間を湯水のように無駄遣いするのでもかまいません。ただ、ふとした瞬間にゼミでやったことのほんの一部を一瞬でも思い出したなら、それにこだわってください。人間なる存在が生きているという事実がもつさざまな凄さ・切なさ・怖さ・素晴らしさに自然と意識が向かっていくその一瞬を、しっかりとらえられる学生になってもらえたから、とてもうれしくおもいます。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

その他

授業中の学生のワークおよび 400 字文章課題に関して、適宜、講評を加える。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
310014	X-21-B-1-310014	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年		
				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

ゼミテーマ・タイトル

世の中について考えるとはどういうことか？

……言いあれば、

他人の幸福や不幸と自分のそれとは関連するのか？

内容

【新入生の皆さんへ】

本当は別のことをしていいのだけれど、でも才能とかお金とか、いろんな制約があるので、今はこうしてここでつまらない人生を送っているんだ、とは絶対に考えないほうが良いと思います。そうやって自分をだます言い訳ばかり考えているうちに、本当にゴミみたいな人間になっていくんじゃないでしょうか。「今ではないいつか、ここではないどこか」における人生ってのが存在するのなら、誰も苦労はしていないし、みんな、もっともっとおしゃらけてるはずでしょう。

以上のことを前提にして【ゼミ内容】を少しまじめに書くと、ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめる、という一連のことをします。当たり前といえば当たり前のことをするわけです。しかしこれは大袈裟に言えば、共同で知的訓練をつむという作業です。中心になるのは議論をするということですから、黙っていても単位はもらえるだろう、と思う人は来ない方がいいです。

そして【何について議論するか】というと世の中についてです。なんでもまた自分以外のことについて考えないといけないかと言うと、それが結局自分の幸福について考ることになりますし、また自分自身を幸福にすることにもつながるはずだからです。その意味で言えば、新聞を読まない人は絶対に幸福になれません。その理由を考えるゼミもあります。ただし、ゼミでの議論がいくら盛り上がっても、各自の目的意識を欠いては、ただの「遊び」でしかありません。他はどうでもいいけれど、現代社会のここだけは絶対許せない、という獣のような批判精神ある学生の参加を期待します。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法についても指導します。

使用予定テキスト

ゼミ参加者と相談して決めます。

ゼミの進め方

特定のテーマに関する論文や記事、書籍を全員で読んで、その内容について議論します。全体の進行を担当する「司会」、内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのみみつの役割を順番に担当します。数回でひとつのテーマを終了する予定です。終了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

成績評価基準

ゼミナールですから出席を重視します。各セメスター、3回までは欠席しても単位を出しますが、それ以上欠席すると単位は出しません。欠席の理由は問いません。バイトだろうが、風邪だろうが、欠席は欠席です。

ゼミ選択上のアドバイス

ま、これも自分をだまさないことでしよう。本当は遊びたいのに、きついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そのところをよくよく考えてください。

実務経験のある
教員による授業
科目有無

実務経験と授業科目との関連性

アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施

×

○

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
310014	X-21-B-1-310014	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年		
				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

ゼミテーマ・タイトル

国際社会を見る眼を養おう

内容

・教員の研究テーマ

北西アフリカの旧フランス植民地であった地域（チュニジア・アルジェリア・モロッコ）の近現代史を勉強しています。この地域は、アラブ・イスラーム世界に含まれますので、中東やイスラームについても研究しています。またフランスの近現代史や今日のフランスの移民問題に関心を持っています。近年は、日本に住むイスラーム教徒など、外国出身の人々との異文化接触についても学生の皆さんと一緒に勉強しています。

・内容

1990年代以降、世界的なイスラーム復興運動が注目を集める中、2001年の9.11事件（アメリカの同時多発テロ）が起こりました。さらに2011年には、「アラブの春」と呼ばれる中東の変革の波が北アフリカ（チュニジア革命）から拡大しています。グローバリゼーションの進む今日の世界では、このような大きな事件は直ちに日本にも影響を及ぼします。なぜ、どのようにしてこのようなことが起こるのか、を考えるために、世界の動向を特に中東や発展途上諸国の側から検討していきたいと思います。またヨーロッパについては私の専門とするフランスという国についてみていいかと思います。そしてこのような国際社会を見ていくためには、そもそも日本とはどのような国なのか、を知る必要があるでしょう。世界の中の日本の位置についても考えてみたいと思います。レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法についても指導します。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

授業の第1回目に文献リストを配布し、ゼミ学生の関心に沿ってテキストを選びます。例えば、入江昭『平和のグローバル化へ向けて』、小熊英二『日本という国』、山本三春『フランススージュネスの反乱』（朝日新聞社）、宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』（岩波新書）、尾上修吾『社会分裂に向かうフランス』（明石書店、2019年2月）等を考えていますが、テキストは未定。

ゼミの進め方

第1回目のゼミでテキストを決定し、これを全員で輪読します。毎回報告者は、

担当の個所を読んでレジュメを作成してきて発表します。それに対して、他の学生も質疑応答して議論に参加します。テキストを読み終えたらレポートを作成してもらいます。これらを通して、本の読み方、議論の仕方、レポートの書き方など、基本的な勉強の方法を学びます。

成績評価基準

ゼミでの発表の内容、レポート、出席状況とゼミ活動に積極的に参加しているか等により評価する。

ゼミ選択上のアドバイス

大学という恵まれた自由な環境の中で、いろいろなことを学び考えて、自分の生き方を模索して下さい。先生や友人との交流を大切にして充実した4年間を過ごしてほしいと思います。基礎ゼミナールもそういう場にしたいと思います。大学生活をスタートさせる大事なゼミです。欠席は認めません。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		×

その他

各回、テキストを学生で分担して輪読する。発表する学生はレズメをつくってきて発表し、他の学生は予定の章を読んで、質問したり議論する。発表する学生は準備に3時間、議論を考えてくる学生は2時間の予習が必要である。テキストは2~3冊を考えているので1冊読み終えるごとに、レポートを書いて提出する。そのための時間は3~4時間を必要とする。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
310014	X-21-B-1-310014	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年		
				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

ゼミテーマ・タイトル

- (1) わたしたちの日常生活と国際協力
(2) 大学で学ぶための知的技法の習得

内容

このゼミでは、次の2つについて学びます。

(1) 国際協力

なぜ豊かな国と恵まれた人々が、遠くの見ず知らずの貧しい人々を助けるのでしょうか。また、どのように助けるのでしょうか。グローバル化が進んだ世界に生きる市民として、私たち一人ひとりは、日常生活のなかでどのように国際協力にかかわることができるのでしょうか。

このゼミでは、国際協力に関する文献やドキュメンタリー、ワークショップを通じて、国際協力に関する基礎と、大学を含む日常生活で実践できる身近な国際協力について学び、上記の問い合わせについて考え、議論し、行動します。

今年度は、とくに「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」について基礎から学びます。SDGsとは、貧困や気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題・課題を、国際社会が協力して2030年までに解決しようとするものです。SDGsは、よりよい未来を目指すための世界共通の17の目標で構成されています。

また、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーや実施も検討します。

(2) 大学生として不可欠な学びの技法

大学で学ぶうえで大切なことは、暗記した内容を試験で答えるという高校までの学びとは異なり、自ら問題を見つけ、それを整理して、自分なりに考えて答えを導き出す能力を身につけることです。

このゼミでは、講義でのノートの取り方、図書館での文献・資料など情報の探し方とその整理の仕方、プレゼンテーションの仕方、レポートの書き方など、大学生として不可欠な学びの技法を、グループワークを通じてじっくり、丁寧に身に付けます。これらは、大学での学びに必須となる「問い合わせて、調べ、考え、表現する」というプロセスの初歩的なトレーニングと位置づけられます。

人前で話すことやグループワークが苦手という人もいるでしょう。しかし心配はいりません。このゼミでは、一人ひとりがファシリテーションの技法を習得し、大学生活だけでなく実社会でも通用するコミュニケーション能力を身に付けます。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック』3訂版、世界思想社、2015年

その他、国際協力に関する基礎的な文献を適宜、配布します。

ゼミの進め方

(1) 文献講読・ドキュメンタリー鑑賞と討論、ワークショップ、(2) 各自のリサーチに関するプレゼンテーション、を組み合わせて行います。また、このゼミで学んだ技法をもとに学期末にレポートを執筆します。

ほぼ毎回、3~4人の少人数のグループにわかれ、アクティブ・ラーニング型の授業を行います。つまり、いつも一緒にいる友達以外とも、たくさん会話や対話をすることになります。コミュニケーションが苦手という人もいると思いますが、社会に出たら、いつも気の合う人とだけ一緒にいることはできません。このゼミは、コミュニケーション能力を高めるというトレーニングも兼ねています。最初は緊張すると思いますが、心配はいりません。一人ひとりが安心して参加できるような雰囲気をつくっていきます。

成績評価基準

(1) 出席、(2) 文献講読・ドキュメンタリー鑑賞と討論の内容、(3) プrezentationの内容、(4) レポートの内容、をもとに総合的に評価します。

ゼミ選択上のアドバイス

ゼミで国際協力を学ぶだけでなく、それを実践したいという、意欲ある人たちの履修を歓迎します。本学には、先進国と途上国の食の不均衡の問題に取り組む TFT NUIS や、フェアトレード推進団体 NUIS-FIT などの国際協力団体があり、各学年の山田ゼミの学生たちが国際協力を実践しています。また、学外でも、毎年5月の万代アースフェスタに出展したり、新潟の国際協力 NGO が一堂に会する、秋の国際協力イベントの企画や運営も行ったりしています。ぜひ一緒に活動しましょう。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	国際協力 NGO でプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。	○
その他		

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310014	X-21-B-1-310014			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	1年 1年 1年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
基礎ゼミナール1	藤本 直生						

ゼミテーマ・タイトル

英字新聞を読んで、英語でエッセイを書いてみよう

内容

皆さん、英字新聞を読んだことがありますか。このゼミでは、毎回 Mainichi Weekly という大学生向けの英字新聞を読むことに挑戦します。ちょっとむずかしそうに聞こえますが、コツをつかむと英字新聞もどんどん読めるようになりますので心配しないで下さい。

前期の基礎ゼミナール1では、内容を確認して要約したり、そのことについてどう思うかみんなで話し合い、1つの記事につき 200 ワードの英文エッセイを書きます。後期のこの基礎ゼミナール2では、そのエッセイをもとにそれらを政治、経済、社会などの分野に分けて、いくつかをまとめて先行文献の紹介として書く方法を学びます。そして、最終的に自分の意見やそれをサポートする文献の加えて、1,000 ワードのエッセイを学期末に完成させます。

なお、このゼミでは Extensive Reading (略して ER、多読) も併せて行います。ER では図書館にある英語の本から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進め、ボキャブラリーを増やして英語力の基礎も身に付けます。レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法についても指導します。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

なお、15 回の授業のうち 1 回を課題に代替します。詳細は授業中にお知らせします。

使用予定テキスト

Mainichi Weekly より次のような記事を読む予定ですが、その他にも最新の記事を付け加えて行きます。

“Taxing Issue” 消費税率 8% に引き上げへ 阿部首相が表明、2/15/2013
“Monkeys Attract International Crowd” 長野県「地獄谷野猿公苑」にて、2/15/2014
“Remembering MLK” キング牧師「私には夢がある」演説から 50 年、9/7/2013
“Booming Bollywood” インド映画の新時代「きっと、うまくいく」8/10-17/2013
“Connecting Cultures” ケリアン・パノス氏に聞くコミュニケーション学、3/9/2013
“History Makers” ラグビーW 杯 日本、初の 3 勝 8 強はならず、10/24/2015
“Confronting Terror” パリ同時テロ 129 人死亡、IS が犯行声明、11/28/2015

ゼミの進め方

英文記事を読み、要約の仕方やそれについての意見についてグループワークで話し合いながら進めます。なお、エッセイの長さは約 200 words とします。このようなエッセイ・ライティングの活動を通して、基本的な英語での論文の書き方を学びます。

成績評価基準

①出席・授業態度 30%、②英文エッセイ 40%、③ER 20% ④ファイル・マネージメント 10%
以上 4 点を総合して成績をつけます。なお、エッセイは期日までに提出すること。

ゼミ選択上のアドバイス

大学に入学して間もない皆さんが 4 年後のことを考えるのはむずかしいと思いますが、4 年生になつたら英語で卒業論文を書きたいという人は、ぜひこのゼミを選んで下さい。また、英語を読んだり書いたりすることに自信を付けたいと思っている人もどうぞ。エッセイの書き方については充分に時間をかけて説明します。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
○	公立中学校での勤務経験を有する教員が、実践的な英語教育を行う。 その他	○

授業で配布するプリントは、ファイルを用意してきちんと綴じて下さい。ファイル・マネージメントも成績評価に加味します。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310014	X-21-B-1-310014			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	1年 1年 1年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
基礎ゼミナール1	瀬戸 裕之						

ゼミテーマ・タイトル

東南アジアについて学ぼう－地域形成と日本とのつながり－

内容

【ゼミの目的】

本ゼミでは、東南アジアの地域形成を学びながら、日本とアジアについて考えることを目的とします。

東南アジアは、現在、世界の中でも経済発展が目覚ましい地域であり、日本企業も多く進出しています。また、毎年、多くの観光客が訪れており、日本との関係が深い地域です。さらに、ASEAN 共同体など国境を越えた経済協力が進みつつあり、今後の展開が注目されています。

一方で、東南アジアの多くの国が、かつて植民地として外国に支配された経験があり、1990 年代になるまで冷戦下で激しい戦争を経験した紛争地域でした。さらに、冷戦後に経済発展が進みつつも、民主化や人権の保障には、まだ多くの課題を抱えています。

今後、東南アジアは、どのような方向に発展していくのでしょうか。また、日本は、それにどのようにかかわっていくべきなのでしょうか。安全保障や経済関係という視点を超えて、東南アジアとの間でより深い関係をつくるためには、東南アジアがどのように形成されてきたのか、日本と東南アジアがどのような位置づけにあるのか、という点について、長期的な視点から考えてみることが重要であると考えます。

本ゼミでは、東南アジアに関する本（新書）と一緒に読みながら、東南アジアに対する理解を深めたいと考えています。

【ゼミの予定】

（前期）

基礎ゼミは、学生の皆さんのが、これから大学で勉強をしていくための方法を学ぶ場でもあります。

前期ゼミの前半では、本の調べ方、文章のまとめ方、レジュメの作り方など、大学で学習するための基本的な技術について学びます。後半には、学生に新聞記事などを持ってきてもらい、最近の東南アジアの出来事、事件について報告してもらいます。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間程度の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

前期ゼミでは、テキストを使用しません。

ゼミの進め方

ゼミで配布するプリント、あるいは、学生が持ってきた新聞記事などを使いながら、ゼミでの学習の仕方、資料の集め方、資料の読み方、ゼミ発表の方法について学びます。

成績評価基準

学生によるゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1) ゼミへの出席・授業態度 (25%)、(2) 担当した章に関する発表内容と取り組みへの姿勢 (50%)、(3) ゼミでの発言やディスカッションへの参加 (25%)、に基づいて評価します。

【注意事項】ゼミ 15 回のうち 1 回分は、レポートで代替します。受講者は、必ず提出してください。

ゼミ選択上のアドバイス

本ゼミでは、これから 4 年間、大学で学習するための基本的な方法を学びます。できるだけ欠席をせずに参加して、ゼミ仲間や教員とのディスカッションを深めてください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
310014	X-21-B-1-310014	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	1年		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年		
基礎ゼミナール1				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

ゼミテーマ・タイトル

「働く」ことから日本経済を考える

内容

皆さんに質問です。皆さんは将来、「働く」予定ですか？「働くかない」予定ですか？

おそらくは多くの人が、大学を卒業したら、ある程度の期間は「働く」だろうと予想しているのではないかと思います。それでは、その皆さん是一体、なぜ「働く」のですか？大学で身についた知識や能力を活かしてみたいと思うからでしょうか？子どもの頃からあこがれている職業があるからでしょうか？新潟県のため、日本社会のために貢献したいからでしょうか？<男だから>あるいは<女だから>働くのでしょうか？

さらに、もう少し考えてみると、「働く」のは家の<中>ですか？<外>ですか？「働く」と言っても、会社やお店でお金を稼ぐことだけが「働く」ではないですね。皆さんはどこで「働く」ことをイメージしているでしょうか？

そして、もし「働けない」時、皆さんはどうやって生活していったら良いと思いますか？

このゼミは「働く」ことを通じて日本経済について考えるゼミです。まず、皆さんには「働く」ことについて学び、「働く」ことについての自分自身の考えを持ってもらいたいと思います。経済学や日本経済論は、“とっつきにくい”“面白くない”“退屈な”“数字ばかりの”勉強に感じている人もいるかもしれません。しかしながら、実は皆さんの現在の生活、そして将来の生活にとても身近なものなのです。中でも「働く」ことはこの国で生活する多くの人の人生のうちに、必ず一度はやってきます。このゼミでは、その「働く」を学んでいきましょう。アルバイトをしている皆さん、おうちでは家事をお手伝い・担当している皆さん、そして将来社会人として「働く」ことを見据えて学んでいる最中の皆さんと、「働く」とは何か、一緒に考えていきたいと思います。

そのうえで、日本経済を「働く」ことという地点に立って眺めてみたいと思います。日本経済の理解というと、なんだか大それたことに感じるかもしれませんのが、「働く」を通して、日本経済を理解していきたいと思います。

そして、このゼミでは「働く」を題材とした文献の輪読や発表から、大学での学びの基礎である、文献の読み方、アカデミックな文章の書き方、グループでのディスカッション（議論）の仕方、みんなの前での発表の仕方、また連絡手段としてメールの使い方などを身に付けてほしいと思います。

ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い、もしくは答えが1つではない問い合わせたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。基礎ゼミナールでは、それらに挑むための練習を行っていきましょう。

なお、毎回の予習・復習に、併せて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

以下の書籍の中から、教員が2冊程度選定します。新学期に大学で行う教科書販売で、自分の分の書籍を各自購入してもらいますので、心づもりをしておいてください。

森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書。

森岡孝二（2013）『過労死は何を告発しているか 現代日本の企業と労働』岩波現代文庫。

高橋祐吉・鷺谷徹・赤堀正成・兵頭淳史（2016）『図説 労働の論点』旬報社。

久原穂（2018）『「働き方改革」の嘘 誰が得をして、誰が苦しむのか』集英社新書。

今野晴貴・嶋崎量（2018）『裁量労働制はなぜ危険か 「働き方改革」の闇』岩波書店。

筒井淳也（2015）『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書。

労働政策研究・研修機構（2018）『非典型化する家族と女性のキャリア』労働政策研究・研修機構。

岩田正美（2007）『現代の貧困 ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書。

唐鑑直義（2012）『脱貧困の社会保障』旬報社。

阿部彩・鈴木大介（2018）『貧困を救えない国日本』PHP新書。

岩永理恵・卯月由佳・木下武徳（2018）『生活保護と貧困対策 その可能性と未来を拓く』有斐閣。

また、大学での学び方を知るための参考文献として、近田政博（2013）『学びのティップス』玉川大学出版部。

ゼミの進め方

基礎ゼミナール1・2を通して、大学生としての過ごし方の基礎を身につけていきましょう。主な学習方法は輪読（選定した本を履修者が順番に読んで担当箇所について発表し、分からぬことについて調べ、疑問や考え方を皆で議論すること）です。また、1年間を通して文章の作成や、発表の練習も適宜行っていきます。なお、ゼミ履修者の様子を見ながら教員が判断し、食事会や合宿なども行います。3年生以降の卒業論文作成を見据えて、1年間をかけて大学での生活に慣れていきましょう。

成績評価基準

履修者本人が担当する輪読の発表や、レポート作成についての、取り組みの姿勢や内容（50%）

授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度（50%）

※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。

ゼミ選択上のアドバイス

大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。とくにゼミナールでは、教員が一方的に講義を行う授業とは異なり、履修者の取り組みが、ゼミの運営に大きく影響します。ゼミの主役はゼミ生の皆さんであり、ゼミは皆さんのが自分の意見や疑問を皆と話す場です。履修者の皆さんの個性が、ゼミの色を作っていくといつても過言ではありません。このゼミでは、誰かと協力して勉強することを楽しみたいと思っている皆さんのが、ゼミの運営を期待します。大事なことは、何事に対しても「なぜ？」をたくさん考え、そして、とにかく恥ずかしがらずにいっぱいしゃべることです。

堀川の専門分野は、経済学（特に労働問題、社会保障・社会福祉、日本経済史）、ジェンダー、セクシュアリティに関するものです。4年生での卒業論文作成に当たり、これらの学問に興味を持っている人を歓迎します。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

その他

ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い合わせたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。4年間の間に、そのような難問に1つでも多くぶち当たってください。

本ゼミでは、輪読の仕方や、発表の仕方など、大学での学び方の基礎はゆっくりとじっくりと履修生みんなで学んでいきますので、履修前の段階で分からぬことがあるても心配はいりません。ただし、『チャレンジ』が好きな人、『チャレンジ』に躊躇しない人の履修を期待します。また、今まであんまり人と話したり、議論したりするのは得意ではなかったという人でも、「話してみたい」「議論してみたい」という意思があれば、是非履修してみてください。「自分も○○してみたい！」の気持ちをもつ人を歓迎します。

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310014	X-21-B-1-310014			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	1年 1年 1年 × × ×
授業科目	担当教員						
基礎ゼミナール1	澤口 晋一	2	前期				

ゼミテーマ・タイトル

ゼミの目的は以下の2つです。1. 国際学部の学生として、日々世界で起こっている様々な出来事や問題に対して常に関心を抱き続けられる気持ちと好奇心を醸成する。

2. 初年次教育：大学での学び方を少しづつ身につける（文献・資料の探し方、テキストの読み方、発表の仕方、文章の書き方等々）。

内容

1. この1年間で毎日、新聞に目を通すという習慣をまずは確実に身に着ける。そのために、各自が当該週の新聞記事の中から特に重要だと感じた、あるいは関心をもった記事を国際欄を中心に4編選び、その内容を指定されたフォーマットに基づいて記載し論評する。ゼミでは、前半の約50分間は毎回1グループ4～5人となってその記事を紹介し、質疑を行う。記入した用紙は毎回回収し、評価を記入したうえで返却する。これを1年間毎週実施する。

2. ゼミ後半は毎回、いわゆる「初年次教育」に関連した内容とする。大学での学びは、高校までの受身的な態度では対応できない部分が多くあります。自ら問題意識をもってそれを解決するはどうすればよいのかを考えることが必要になります。そのためには一定の学ぶためのスキル（例えば、文献・資料の探し方、テキストの読み方、発表の仕方、文章の書き方等々）が必要になります。それをこのゼミでできるだけ多く身に着けてもらいたいと思っています。

なお、上記のゼミを遂行するためには、ゼミ員は毎週のゼミの準備に予習・復習含めて4時間の学習を必要とします。

使用予定テキスト

- ・新聞
- ・佐藤 望ほか『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—』慶應大学出版会。
他のテキスト

ゼミの進め方

上記の内容と同じ。

成績評価基準

毎回の新聞記事報告用紙の提出とその内容、口頭報告の内容および取り組み姿勢など。

ゼミ選択上のアドバイス

毎日、新聞を開いて眺めて、興味のある記事を見つけて、切り取ってその内容をレビューするということをやってみたい人、待ってます。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

その他

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習